

●書名 完本 高橋亨 京城帝國大學講義ノート
〈朝鮮儒學史編〉

●著者 高橋亨(京城帝國大學名誉教授)

●編者 権 純哲 권 순철 (埼玉大学教養学部教授)

●体裁 A5判・上製・約1,350頁

●定価 本体22,000円+税 ISBN978-4-86691-307-0

●刊行 2021年2月

●書名 完本 高橋亨 京城帝國大學講義ノート
〈朝鮮思想史編〉

●著者 高橋亨(京城帝國大學名誉教授)

●編者 権 純哲 권 순철 (埼玉大学教養学部教授)

●体裁 A5判・上製・約600頁

●定価 本体10,800円+税 ISBN978-4-86691-308-7

●刊行 2021年2月

〈本書の特徴〉

- ・近代学問としての朝鮮思想・儒学史研究は、高橋亨によって成立した。本書はその成立過程の重要な資料である。
- ・講義ノート上の追記・削除など高橋による推敲の痕跡を再現することを主眼とする。また引用文の出典確認や校勘を行ったうえ、適宜補注を施している。



高橋 亨 (たかはし とおる)

1878年生まれ。新潟県出身。東京帝国大学漢学科卒業。早稲田大学講師を経て、『九州日報』主筆をつとめる。1904年に渡韓、官立中学校などを経て、大邱高等普通学校の初代校長に着任。1919年、「朝鮮の教化と教政」により、東京帝国大学より博士号を授与される。その後、一年間の欧米視察を終えたのち、京城帝国大学創設に関わり、1926年開校と同時に同校法文学部教授就任。「朝鮮語学・朝鮮文学第一講座」を担当。敗戦後は山口県に引揚げ、福岡商科大学、天理大学に赴任。朝鮮学会を設立し、戦後の朝鮮研究を牽引した。1967年死去。

●主要著作
『韓語文典』(博文館、1909年)、『朝鮮の物語集』(日韓書房、1910年)、『朝鮮の俚諺集』(日韓書房、1914年)、『李朝仏教 朝鮮思想史大系』(宝文館、1929年)

編者紹介

権 純哲 권 순철 (クォン スン チョル)

埼玉大学教養学部教授。博士(文学) 東京大学。博士論文「茶山丁若鏞の經学思想研究」。

●主要論文
「高橋亨の朝鮮思想史研究」、「退溪哲学原型の誕生と植民地近代性——近代日本の退溪研究」、「松田甲の「日鮮」文化交流史研究」など。

関連図書のご案内 (既刊)

仏教布教史資料集成

〈朝鮮編〉

●編・解題 中西直樹(龍谷大学教授)

●推薦 坂口満宏(京都女子大学教授)

柴田幹夫(新潟大学国際センター)

●体裁 A5判・上製・総約3,880頁

●揃定価 本体175,000円+税

満州農業開拓民

——「東亜農業のシヨウウインドウ」の建設と結末——

今井良一著

●体裁 A5版・上製・240頁

●定価 本体3,000円+税

三人社

〒606-8316
京都市左京区吉田二本松町4 白亜荘
電話 075-762-0368
FAX 075-762-0369

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

●表示はすべて税別

完本 高橋亨 京城帝國大學 講義ノート

〈朝鮮儒學史編〉 〈朝鮮思想史編〉

近代学問としての朝鮮思想研究の祖であり、京城帝国大学初代名誉教授であった高橋亨。その多大な研究業績は、敗戦後、帝国意識あふれる植民地官学イデオロギーの典型とされた。高橋のイデオロギーへの強い批判の一方で、語学から仏教、儒教にわたる比類のない業績は、未だ十分検証されていない。書籍化が少なかったこともあり、高橋の朝鮮研究の全貌は、講義ノートにのみ残されている。

世界の朝鮮研究に資する、
幻の講義ノート60冊を
2巻にまとめ一挙刊行!



●編者 権 純哲 (권 순철)

●完本 高橋亨 京城帝國大學講義ノート
〈朝鮮儒學史編〉
全1巻・上製・約1,350頁
定価22,000円+税

●完本 高橋亨 京城帝國大學講義ノート
〈朝鮮思想史編〉
全1巻・上製・約600頁
定価10,800円+税

三人社

完本 高橋亨京城帝國大學講義ノート

〈朝鮮儒學史編〉

〈本書の内容〉

現存講義ノートの朝鮮儒学史部分47冊は、「朝鮮儒学史」全20冊、「朝鮮儒学史号外」1冊、「朝鮮儒学史講本」全7冊、「李退溪與李栗谷」全4冊(中断末尾破本)、「支那朝鮮儒學哲學史」(第一・第二冊欠)全3冊、「朝鮮異學派之研究」(構想メモ)1冊、「朝鮮異學派之儒學」全6冊、「朝鮮異學派之儒學講本」全4冊(中断)のほか、「東洋道德」1冊より成る。この内、公刊記事の原稿と判断される「東洋道德」、内容が他のノートに反映された「朝鮮儒学史号外」を除き、「支那朝鮮儒學哲學史」は部分的に収録して『完本朝鮮儒学史編』を仕上げた。

第一部「完本朝鮮儒学史」と第二部「完本朝鮮儒学史講本」は、時系列には前・後をなすが、内と外(根と花)の二重的関係にある。つまり、高橋の朝鮮儒学史叙述において、その骨格構築と資料の補充と詳説が「完本朝鮮儒学史」の主な特徴だとすれば、叙述の精練化と説明の明瞭化が「完本朝鮮儒学史講本」の主な特徴といえる。

第三部「完本朝鮮異學派の儒學」は最後に執筆した講義ノートで、その異学派の提唱は、従来高橋が朝鮮儒学の正統とした主理派・主気派とは次元を異にするものである。高橋学問の新局面として、正統儒学に対し学理上全面的反抗を展開した異学派の存在とその継承の様相は、ここではじめて明らかになった。これによって高橋亨の朝鮮儒学史に対する立体的照射・俯瞰が可能になる。高橋がたびたび言及しながらも本格的叙述までに至らなかった朝鮮儒学の経済学派とともに、今後新たな研究が期待される領域である。

『完本高橋亨京城帝國大學講義ノート(朝鮮思想史編)』は、「完本朝鮮儒学史」「完本朝鮮儒学史講本」「完本朝鮮異學派の儒學」の三部から構成される。

第一部「完本朝鮮儒学史」

「完本朝鮮儒学史」は、第二期「李栗谷」までにて終る全20冊一群の翻刻から成り、高橋の朝鮮儒学史の本体をなすものである。しかし「完本朝鮮異學派之儒學」にみる李朝儒学史の三期区分のうち、第三期まで及んでいないという点が、高橋の正統朝鮮儒学史叙述の特徴であり、また限界ともいえる。だが、朝鮮儒学史上、李退溪の存在を最も重視する高橋は、李退溪のところで、李退溪の人物や学説に対する第三期の学者による言及を多数引用し、その後世への影響を強調している。ゆえに「完本朝鮮儒学史」は高橋朝鮮儒学研究の骨格と全容を示すとともに、資料集の性格を併せ持つものである。

第一部「完本朝鮮儒学史」目次(抄録)

- 序論
- 第一編 朝鮮古代の儒學
- 第一章 古代朝鮮の文化
- 第二節 朝鮮の地域
- 第三節 三國以前の支那文化の傳來
- 第四節 高句麗・百濟の漢學
- 第二章 新羅の文化
- 第二編 高麗の儒學
- 第一章 高麗の學制と科擧
- 第二章 朱子學傳來に至る迄の高麗漢學
- 第三章 朱子學傳來後の高麗の儒學
- 第四章 麗末斥佛の議論と大學の活動
- 第五章 麗末の儒學者
- 第三編 李朝の儒學
- 第一章 李朝國初の大學及科擧
- 第四編 李朝の儒學第一期
- 第一章 國初の儒學
- 第二章 金叔滋及金宗直
- 第三章 金宏弼・鄭汝昌
- 第四章 趙靜庵・金慕齋及思齋
- 第五章 金時習・柳崇祖
- 第六章 慕齋の門徒
- 第七章 中宗より明宗に至る儒學者
- 第八章 第一期末に於る爾他の學者
- 第五編 李朝儒學史第二期

第一章 李退溪

- 第二章 李退溪と同時代の儒學者
- 第三章 退溪門徒
- 第四章 李栗谷

第二部「完本朝鮮儒学史講本」

第二部「完本朝鮮儒学史講本」は、「完本朝鮮儒学史」にある引用文を多く割愛して高橋自身がそれを書き直した概説版といえる。その目次は「完本朝鮮儒学史」とは、一部統合修正はあるが、おおむね同じである。

第三部「完本朝鮮異學派の儒學」目次(抄録)

- 第三部「完本朝鮮異學派の儒學」は、二つのノート群を統合、すなわち「朝鮮異學派之儒學講本」を基本にし、その中断部分の後続部分と、「講本」にない阮堂金正喜・白雲沈大允・白雲李炳憲の記述は「朝鮮儒学之異学派」をもって補足し、完本とした。
- 序論
- 第一章 朱子學
- 朱子學系
- 朱子の生涯
- 學說
- 一、理氣說
- 二、心性情論
- 三、修養論
- 四、政治論
- 第二章 朝鮮儒學第一期に於ける異學
- 一 徐花潭
- 二 盧蘇齋
- 三 花潭門人及李一齋
- 李朝儒學第二期及第三期に於ける異學
- 緒言
- 第一章 尹白湖
- 第二章 朴世堂
- 第三章 鄭霞谷
- 第四章 丁茶山
- 第五章 金阮堂
- 第六章 沈白雲
- 第七章 李白雲

完本 高橋亨京城帝國大學講義ノート

〈朝鮮思想史編〉

〈本書の内容〉

現存講義ノートの朝鮮思想史部分19冊は、「朝鮮思想及信仰史」全6冊、「朝鮮思想史概説講本」全6冊、「朝鮮思想史概説講本(最新)」全2冊(中断)と同じく「朝鮮思想史概説講本(最新)」全5冊(中断)より成る。その内容を見ると、起稿時期が1927年6月の巻六、同年11月の巻七と最も早い「朝鮮思想及信仰史」は最も記述豊富で、その内容は主著『李朝佛教』(1929)に引き続くように終わっている。この「朝鮮思想及信仰史」は京城帝國大學朝鮮語学朝鮮文学講座の専門科目にあつて、専門講義ノートという特徴を持つ。1930年起稿の「朝鮮思想史概説講本」全6冊は、「朝鮮思想及信仰史」を書き直して作った概説であり、その最新版が「朝鮮思想史概説講本(最新)」である。同名の二つのノート群があるが、起稿年月のない「朝鮮思想史概説講本(最新)」全2冊は、1933―34年起稿の他のノート群と内容が重複しており割愛した。

『完本京城帝國大學講義ノート 朝鮮思想史編』においては、完成度の高い「朝鮮思想史概説講本」を先頭におき「朝鮮思想史概説講本(最新)」そして冒頭部のない「朝鮮思想及信仰史」を最後に配置し、全体を整えた。

第一部「完本朝鮮思想史概説講本」は、その内容が首尾貫徹した全6冊の一群である。

第二部「完本朝鮮思想史概説講本(最新)」は、「李朝思想史」に及ばずその直前中断状態で現存する全5冊の一群であるが、天理大学時代に書き込んだ追記も多数散見される。引揚げ後、激変する韓国・朝鮮情勢と関連した言及から、高橋晩年の朝鮮思想史観のあり様をうかがうことができ、また注目される。「完本」においては、割愛した全2冊「朝鮮思想史概説講本(最新)」と照合し、高橋による天理での追記や修正を明確に区分してある。

第三部「完本朝鮮思想及信仰史」は、冒頭部が現存しないという限界はあるが、高橋の朝鮮思想史の叙述における基礎土台を成す資料として重要である。目次にみるように、章・節とも最も多く詳細な叙述が特徴である。

第一部「完本朝鮮思想史概説講本」

第一部「完本朝鮮思想史概説講本」は、最も完成度の高い「朝鮮思想史概説講本」全6冊一群の翻刻であり、その目次は、以下である。

第一部「完本朝鮮思想史概説講本」目次(抄録)

- 第一章 序説
- 第二章 古代朝鮮の文化
- 三國・新羅思想史
- 第一章 高句麗百濟の漢學
- 第二章 新羅の佛教
- 第一節 根本佛土説
- 第二節 元曉、義相
- 第三節 新羅の禪宗
- 第三章 新羅君臣の崇佛と道説
- 第一節 新羅君臣の崇佛
- 第二節 道説禪師
- 第四章 新羅に於ける三教二教調和論
- 高麗朝思想史
- 第一章 太祖と佛教
- 第二章 高麗の僧階
- 第三章 高麗の漢學と科擧
- 第四章 高麗儒者の佛教觀
- 第五章 高麗の風水説
- 第六章 高麗佛教第二期
- 第七章 朱子學の輸入及斥佛論の勃興
- 第八章 高麗の道教及其佛教との關係

【中斷】(以下思想信仰史巻八第二節)

- 李朝思想史
- 序言
- 第一章 排佛教政
- 第二章 朝鮮佛教命脈維持の理由
- 第三章 李朝儒學の三期
- 第四章 朱子學の作出せる朝鮮の社會相
- 第五章 三教調和論 附東學

第二部「完本朝鮮思想史概説講本(最新)」

第二部「完本朝鮮思想史概説講本(最新)」は、同題の全5冊(中断)一群の翻刻であり、その目次は、「完本朝鮮思想史概説講本」とおおむね同じである。

第三部「完本朝鮮思想及信仰史」

第三部「完本朝鮮思想及信仰史」は、第一冊・第二冊はなく第三冊より第八冊まで現存する不完全な6冊一群の翻刻であり、末尾の内容が公刊された「李朝佛教」に連絡するという特徴を持つ。その目次は、以下の通りである。

第三部「完本朝鮮思想及信仰史」目次(抄録)

- 第五節 三國時代に於ける新羅佛教の三期
- 第二編 新羅の佛教
- 第一章 新羅君臣の崇佛
- 第二章 新羅佛教宗派と高僧
- 第一節 禪宗以外の宗派
- 第二節 新羅の禪宗
- 第三章 麗末の佛教
- 第三編 高麗の部
- 第一章 高麗佛教第一期
- 第一節 太祖と佛教
- 第二節 當時の諸宗
- 第三節 僧階
- 第四節 當時の思想の特色
- 第二章 高麗佛教第二期
- 第一節 天台宗の開立
- 第二節 禪宗の復興
- 第三節 高麗大藏經
- 第一章 親元後の高麗佛教並に儒學の勃興
- 第二節 儒學の勃興
- 第四章 麗末斥佛の議論と大學の活動
- 第一節 文臣斥佛の議
- 第二節 麗末の大學
- 第五章 臨濟宗の將來
- 第一節 懶翁派
- 第二節 太古派
- 第六章 麗末の佛弊
- 第七章 高麗の道教及其佛教との關係
- 第四編 李朝の教政
- 第一章 太祖と佛教
- 第二章 太宗世宗の教政